

診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー —平成26年（第16回）SARTセミナー—

前総務担当
常務理事 田中 宏

平成26年5月11日（日）、さいたま赤十字病院で、公益社団法人日本診療放射線技師会、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会合同主催にてフレッシューズセミナーが開催され、参加者は58人でした。

本セミナーは技師会活動のアピールと新人教育を目的としたセミナーで、未入会者を対象としています。が、診療放射線技師であればだれでも受講できるものです。

プログラム内容は以下の通りです。

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1. 技師会について（認定制度） | 田中 宏 |
| 2. 社会人としてのエチケット・マナー講座 | 中根 淳 |
| 3. 患者さんに優しい診療放射線技師 | 岡田 智子 |
| 4. 医療安全講座 | 佐々木 健 |
| 5. 感染対策講座 | 佐々木 健 |
| 6. 症例検討会 | |
| 乳房 | 越沼 沙織 |
| CT・肺 | 城處 洋輔 |
| 消化器 | 今出 克利 |
| 7. 気管支解剖講座 | 富田 博信 |



講師



受講中

フレッシューズセミナーを受講して

上尾中央総合病院 放射線技術科 柳澤 慧

4月から新社会人となり、社会人としてのマナーや診療放射線技師としての業務を学ぶ日々を送っている中で、今回のセミナーを受講し、この先自分自身がどのような診療放射線技師を目指し業務にあたっていくべきなのかを考えることができました。

当院でも、接遇やマナー研修を受講しましたが「社会人としてのエチケット・マナー」を受講して、しっかりと身に付いているのかを確認でき、自分が分かっていなかったことや勘違いしていたことを知ることができました。またあらためて、社会人としての大事な基礎であることを学び、その大切さを再確認しました。

「患者さんに優しい診療放射線技師」では、患者さんに思いやりの気持ちを持って接し、人としての温かみのある接遇を行っていかうとあらためて思いました。

「医療安全講座」の中で過去の事例の講義を聞き、業務を行う上でどんなところにもインシデントやアクシデントを引き起こしてしまう危険があり、うっかりしたミスが大きな事故に繋がってしまうことの怖さや、自分がいつか起こしてしまうかもしれないという不安を感じました。患者間違えのないよう本人確認を徹底して行い、医療人としての責任・自覚を持って日々の業務を行っていきます。

「感染対策講座」では正しい手洗いの実践をして、普段の自分の手洗いでは洗い残している部分がたくさんあることを認識できました。マスクの装着方法・手袋・エプロンの脱ぎ方など、普段気にしているように細部まで行き届いていなかった感染対策を知ることができました。日々の業務を行う上ですぐに実践できることが多く、今後に生かしていきたいと思います。

症例検討会では、乳房撮影・CT・消化管について受講し、臨床画像をたくさん拝見することができました。私は今、乳房撮影での読影を学び始めたばかりです。今回乳房の異常所見画像を拝見することができて、業務に役立てることができると感じました。読影をするには確かな知識が必要であり、これから先、経験を積み勉強をしてわずかな異常所見でも見逃さないような読影力を身に付けたいと思います。

フレッシューズセミナーを通して、診療放射線技師として業務にあたる上での大切なことを再認識することができました。

最後になりましたが今回、貴重なお話を聞くことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。講義をしてくださった講師の方々には、厚くお礼申し上げます。

フレッシューズセミナーに参加して

埼玉県立小児医療センター 放射線技術部 藤畑 将理

今回のフレッシューズセミナーには、2人の同僚と参加させていただきました。埼玉県内外から新人を含めた58人の診療放射線技師が参加しており、多くの知識や技術を学ぼうとする姿勢を感じ、とても良い刺激を受けました。

セミナーでは、臨床的な技術や知識だけでなく、社会人としてのマナーやエチケット、病院で働く医療従事者として必要な作法の講義を受け、大変有意義なものとなりました。マナーとエチケットは似たイメージですが、挨拶など、すべきことをこなすマナーと、状況によりすべきことと、しないで相手を気遣うこともあるというエチケットの違いがあることを学びました。このマナーとエチケットの状況判断は社会経験の乏しい私には容易ではありませんが、これからの社会人生活の中で自ら考え、数多くの方々とふれあい、学び続けていく必要があると感じました。受け付けの電話対応や、患者さんに対しての言葉遣いは、正しく使う必要があり、敬語の重要性を再認識致しました。大切なことは、自分がどう思うかではなく、相手がどう感じるかがキーワードになると思います。

感染対策講座では、毎日何気ない日常で行っている手洗いが、患者さんの命を守る大切な行為であることを知りました。今後は、医療安全や感染防止対策という観点から、医療従事者としての行動を行ってきたいと考えます。

症例検討会では、マンモグラフィ・胸部CT・上部消化管造影検査の読影について講義を受けました。マンモグラフィの検討会で、微細石灰化はその分布と形状からのカテゴリー分類を行いました。実際の画像を診ると典型的な症例ばかりではないことに気付きました。胸部CTの検討会では、肺がんが転移しやすい部位は脳・肝臓・副腎・骨・リンパ節・胸膜であり、非小細胞癌の7%に副腎転移があるとのことでした。ゆえに、撮影範囲は胸部だけでなく上腹部も含めた方が良いという検査法の構築も学びました。上部消化管造影検査の検討会では、胃の区分名称と境界線、病理に基づいた胃がんの組織型分類を学びました。

以上、3モダリティの読影を経験しましたが、読影能力の向上は、撮影・検査へフィードバックをし、精度の高い検査につながる事が理解できました。

気管支解剖講座では、気管支体操を用いてユニークな方法で解剖を学ぶことができました。今後、CT検査に携わったときには、肺の区域を確認しながら検査を進めていきます。

今回のフレッシューズセミナーに参加することによって、教科書で学ぶことと、実践で学ぶことは違うということを実感しました。また他の病院の診療放射線技師の仲間と交流するよい機会にもなりました。今後もこのようなセミナーには積極的に参加し、患者さんから信頼される診療放射線技師になります。